

福祉生活病院常任委員会資料

(令和5年8月21日)

【件名】

- 孤独・孤立に関する県内アンケート調査の実施結果について
(孤独・孤立対策課)・・・2

- 「鳥取県手話言語条例制定10周年記念 第10回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」予選審査会の結果について
(障がい福祉課)・・・5

- あるくと健康！うごく元気！キャンペーン（第2弾）の実施について
(健康政策課)・・・9

- 更年期障がい医療拠点病院について
(健康政策課)・・・10

- 第1回「中山間地域を支える医療人材確保に向けた研究会」の開催結果について
(医療政策課)・・・11

- 新型コロナウイルス感染症への対応について
(感染症対策課)・・・13

- 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
(医療政策課)・・・15

福祉保健部

孤独・孤立に関する県内アンケート調査の実施結果について

令和5年8月21日

孤独・孤立対策課

内閣官房が実施した「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」では都道府県ごとの状況が把握できなかったため、孤独・孤立に関する県内アンケート調査を実施しましたので、調査結果の概要を報告します。

1 調査方法等

- (1) 調査期間 令和4年12月15日～12月21日
- (2) 調査方法 インターネット上での調査（委託実施）
- (3) 調査対象 委託先事業者のインターネットモニターに登録している鳥取県に居住する満16歳以上の個人（約9,000人）
- (4) 回答者数 1,700人
＜内訳＞
 - ・男女別 男性：813人（47.8%）、女性：859人（50.5%）、その他：28人（1.6%）
 - ・年齢別 10代：15人（0.9%）、20代：147人（8.6%）、30代：344人（20.2%）、40代：436人（25.6%）、50代：356人（20.9%）、60代：281人（16.5%）、70代以上：121人（7.1%）
- (5) 調査事項 32問
 - ・属性事項（年齢、性別、同居人の有無、教育・就業形態など）
 - ・孤独に関する事項（孤独感の有無、孤独感に至る前に経験した出来事など）
 - ・孤立に関する事項（外出頻度、社会参加の状況など）
 - ・その他関連事項（不安や悩みの相談相手の有無、孤独・孤立の状態が解消したきっかけなど）※国調査事項に加え、「孤独・孤立の状態が解消した経験」等の本県独自の設問も調査

2 結果の概要（主な調査結果）

(1) 孤独の状況

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は7.2%、「時々ある」13.8%、「たまにある」22.5%、「ほとんどない」40.9%、「決してない」15.5%という回答でした。

(参考) 内閣官房孤独・孤立対策担当室 人々のつながりに関する基礎調査（令和4年）の数値（以下「国調査結果」という。）

「しばしばある・常にある」：4.9%、「時々ある」15.8%、「たまにある」19.6%、「ほとんどない」40.6%、「決してない」18.4%



(2) 年齢階級別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の年齢階級別の割合は、20代が11.6%で最も高く、次いで30代が10.2%、40代が8.5%などであり、割合が最も低いのは70代以上で2.5%でした。若年層で孤独感を抱えている割合が高くなっています。

(参考) 国調査結果

30代が7.2%で最も高く、次いで20代が7.1%、50代が6.2%などであり、割合が最も低いのは80代以上で2.3%でした。

(3) 現在の仕事の種類別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の仕事の種類別の割合は、「失業中」が13.8%で最も高く、次いで「派遣社員」が12.1%などであり、割合が最も低いのは「学生」の3.3%でした。

失業や不安定な雇用環境などにより社会との接点が少なくなることも、孤独感につながる一因と推測されます。

(参考) 国調査結果

「失業中」が9.9%で最も高く、次いで「家族従業者・内職」が5.9%、「非正規の職員・従業員」が5.3%などであり、割合が最も低いのは「会社役員」で1.7%でした。

(4) 行政機関・NPO等からの支援の有無別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人における行政機関やNPO等からの困りごとに対する支援の有無別の割合は、支援を受けていない人が79.7%、支援を受けている人が8.1%で、孤独感を感じている人の約8割が行政機関やNPO等からの支援を受けていないとの回答でした。

(参考) 国調査結果

支援を受けていない人が85.8%、支援を受けている人が8.9%でした。

(5) 現在の孤独感に至る前に経験した出来事の状態

孤独感が「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人が、その状況に至る前に経験した出来事の状態(「いずれも経験したことがない」は除く)は、「一人暮らし」が24.0%で最も高く、次いで「転校・転職・離職・退職(失業を除く)」が19.0%、「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)、人間関係による重大なトラブル(いじめ・ハラスメント等を含む)」が16.0%などであり、一人暮らしや転校・転職などのほか、病気・怪我、人間関係のトラブル等を経験した後には孤独感を感じている傾向が出ています。

(参考) 国調査結果

「家族との死別」が27.0%で最も高く、次いで「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)」が17.7%、「転校・転職・離職・退職(失業を除く)」が16.9%などでした。

(6) 孤立の状況

社会的交流(家族・友人等との接触状況等)、社会参加、社会的サポート(他者からの支援/他者への手助け)の状況から孤立の状態を把握しています。

○「社会的交流」の状況の主なもの

同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度が「全くない」人の男女、年齢階級別の割合は、20代男性が19.4%で最も高く、次いで60代男性が17.0%、40代男性が16.6%などでした。

(参考) 国調査結果

30代男性が16.6%で最も高く、次いで40代男性が15.7%、20代男性が15.5%などでした。

○「社会参加」の状況の主なもの

社会参加の状況が「特に参加はしていない」人の男女、年齢階級別の割合は、20代男性が77.4%で最も高く、次いで20代女性が75.9%、30代女性が65.9%などでした。

(参考) 国調査結果

20代女性が72.0%で最も高く、次いで30代女性が63.0%、20代男性が59.4%などでした。

○「社会的サポート」の状況の主なもの

他者からの支援を「受けていない」人の男女、年齢階級別の割合は、60代女性、70代以上女性が100%で最も高く、次いで70代以上男性が99.0%などでした。

(参考) 国調査結果

家族・友人等からの手助けを「受けていない」人の男女、年齢階級別の割合は、50代男性が51.6%で最も高く、次いで30代男性が50.8%などでした。

※国調査では、手助けを受ける相手が家族・友人等と行政機関・NPO等に分かれています。

また、他者への手助けを「していない(したいと思わない・手助けを必要とする人がいるか分からない)」人の男女、年齢階級別の割合は、10代男性が20.0%で最も高く、次いで40代男

性が19.0%、30代男性が16.7%などでした。

(参考) 国調査結果

他者への手助けを「しようと思わない」人の男女、年齢階級別の割合は、20代男性が14.5%で最も高く、次いで40代男性が14.4%、50代男性が14.2%などでした。

(7) 孤独・孤立状態にある方への支援で必要なこと (自由記載) ※件数が上位のものを抜粋

- ・声をかける、見守る、寄り添う、話し相手になる
- ・気軽に集まれる居場所やコミュニティづくり
- ・相談支援や相談窓口・機関の充実
- ・地域や民間の力による支援
- ・訪問によるアプローチ
- ・経済的な支援
- ・国や自治体による支援
- ・支援に関する情報の提供やPR など

(8) 孤独・孤立を感じている内容別の割合

「人間関係がうまく構築できない」が最も高く17.2%、次いで「病気・怪我による心身の不調」が12.4%、「身近に相談できる人、場所がない又は相談先がわからない」が11.9%などでした。

※孤独・孤立を感じていない等を除く

(9) 孤独・孤立状態が解消したきっかけ別の割合

「時間が経過することで自分の気持ちに変化が生じた」が25.1%で最も高く、「相談や話ができる相手との新たな出会いがあった」が17.6%などでした。

※「孤独・孤立を感じたことがない」を除く

(10) 孤独・孤立状態が解消したきっかけ (相談や話ができる相手との新たな出会いがあった) につながった経緯別の割合

「自発的な活動」が80.5%で最も高く、次いで「行政等の外部からの情報提供等」が8.1%、「左記の両方」が11.4%でした。

「鳥取県手話言語条例制定 10 周年記念 第 10 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」 予選審査会の結果について

令和 5 年 8 月 2 1 日
障がい福祉課

鳥取県手話言語条例制定 10 周年記念 第 10 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の本大会の予選審査会について、7 月 27 日（木）にリモートで開催し、9 月 24 日（日）に開催する本大会に出場する 15 チームを決定しました。

1 本大会出場チーム

別紙 1 のとおり 15 チーム（16 校※）を選出

※合同チームが 1 つ（田鶴浜高等学校・石川県立ろう学校（石川県））

2 本大会出場チームの選出状況

（1）本県から参加した 5 チーム（5 校）のうち、1 チーム（1 校）が本大会に出場決定。

・鳥取聾学校（3 年連続 7 回目）〔得点順枠で選出〕

※その他、本県から参加した、鳥取城北高等学校、琴の浦高等特別支援学校、米子東高等学校、境港総合技術高等学校は、残念ながら予選通過ならず。

（2）本大会に初めて出場する学校が 6 校

・秋田県立聴覚支援学校（秋田県）、・竹園高等学校（茨城県）

・栃木県立聾学校（栃木県）

・石川県立ろう学校（石川県）※田鶴浜高等学校（今年度 10 回目の参加。本大会出場も 10 年連続 10 回目）との合同チームで参加

・久米田高等学校（大阪府）、・済美平成中等教育学校（愛媛県）

※上記校のうち、5 校（秋田県立聴覚支援学校（全ろう連の久松事務局長の母校）、栃木県立聾学校、石川県立ろう学校、久米田高校、愛媛県の済美平成中等教育学校）は、甲子園の参加申込み自体が今回初めて。

（3）過去大会優勝経験のある 5 校も本大会出場

第 9 回/坂戸ろう学園・大宮ろう学園（合同チーム）

第 8 回/第 7 回/第 4 回/第 2 回：奈良県立ろう学校（奈良県）、

第 3 回：熊本聾学校（熊本県）、第 1 回：田鶴浜高等学校（石川県）

3 本大会演技順・選手宣誓チーム

（1）本大会演技順：別紙 1 のとおり

（2）選手宣誓チーム（抽選により選出）：栃木県立聾学校（栃木県）

4 予選審査会の概要

（1）日 時：令和 5 年 7 月 27 日（木）午後 1 時 30 から午後 2 時 30 分まで

（2）審査会実施方法：リモートにより実施

（3）審査員 審査員長：庄崎 隆志 氏（演出家・俳優 ろう者）

審査員：大竹 浩司 氏（全日本ろうあ連盟 副理事長 ろう者）

K A Z U K I 氏（手話パフォーマー ろう者）

門 秀彦 氏（絵かき きこえる人）

杉村 藍 氏（鳥取大学地域学部 教授 きこえる人）

中西 浄華 氏（タップダンサー きこえる人）

（4）本大会出場チームの選出

参加申込みのあった 69 チーム（別紙 2）から提出された予選審査動画の審査により、本大会出場チームを選出。

①地方ブロック枠（6 チーム） → 6 チーム選出

6 つの各地方ブロック（北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄）で審査得点が最も高いチームを選出。

②得点順枠（5 チーム以上） → 6 チーム選出（1 チームは合同チーム枠から振り替え）

①の選出チームを除き、審査得点が高い順に 6 チームを選出。

③合同チーム枠（1チーム） →選出なしのため、得点順枠に振り替え

①及び②の選出チーム以外に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他の学校で構成する合同チームの中で審査得点が最も高いチームを選出。

※合同チーム1チームの参加があったが、得点順枠で選出済みのため、この枠での選出無し。

④初出場枠（2チーム以上） →3チーム選出（1チームは開催チーム枠から振り替え）

①から③までの選出チーム以外に、これまで本大会に出場したことがないチームの中で審査得点が最も高いチームを選出。

⑤開催地枠（1チーム） →選出なしのため、初出場枠に振り替え

①から④までの選出チームの中に開催地（鳥取県）のチームが含まれていない場合に限り、開催地（鳥取県）のチームの中で審査得点が最も高いチームを選出。

5 予選審査結果発表について

(1) 日 時 令和5年7月28日（金）正午から午後0時45分まで

(2) 発表方法 「手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル」YouTube 上で発表
(<https://www.youtube.com/user/skoushien>)

(3) 内 容

本大会出場15チームの発表、本大会演技順の発表、選手宣誓チーム発表及び審査員長の講評

6 本大会の概要

(1) 開催日時 令和5年9月24日（日）午前9時30分から午後4時10分まで（予定）

(2) 開催場所 とりぎん文化会館（鳥取市尚徳町101-5）（※現地開催）

(3) 内 容 予選を通過した15チームによる手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇等

7 参考（とっとり手話フェス概要）

手話言語条例の制定10周年と全国高校生手話パフォーマンス甲子園第10回大会を記念し、手話言語条例を全国で初めて制定した“手話の聖地”鳥取から、全国に向けて手話言語への理解・普及推進、共生社会の実現を図るとともに、2025年デフリンピック東京大会（以下「デフリンピック東京大会」という。）の成功に向けた機運醸成のため、きこえない人、きこえにくい人、きこえる人、誰もが楽しめるイベントを集中的に実施。

(1) 開催期間：令和5年9月16日（土）から9月24日（日）

(2) 開催場所：とりぎん文化会館（鳥取市尚徳町101-5）

(3) 開催内容（主なもの）

イベント	開催日	内 容
鳥取県手話言語条例制定10周年記念オープニングセレモニー	9/16	鳥取県手話言語条例制定10周年を記念する式典。新たな手話言語の時代をテーマとしたパネルディスカッション及びデフリンピックをテーマとしたトークセッションも実施。
とっとり手話フェスLIVE 2023	9/17	■音楽やお笑い×手話などの様々な手話パフォーマンスライブ ■出演者：HANDSIGN（毎年手話パフォーマンス甲子園にテーマソングを提供）、島谷ひとみ（歌手）、足立 梨花（女優・タレント）、miwa（シンガーソングライター・女優）、ハジ→（歌手）、よしもと手話ブ（お笑い）、KUROKO（ダンス）ほか
ダイアログ・イン・サイレンス ショーケース	9/16～9/18、 9/23、9/24	ジェスチャーやボディーランゲージ等、音声に頼らないコミュニケーション手法について楽しみながら、“言葉の壁”を越える表現方法の気づきの場となる「音の無い世界」の体験会。ダイアログ・イン・サイレンスの中国地方初開催。
きこえない人・きこえる人が楽しめるアート体験会	9/16～9/17	手話パフォーマンス甲子園の審査員を長年務めてきた絵かきの門秀彦氏によるアートワークショップ
デフムービーシアター（上映会）	9/16～9/17、 9/23	コーダ（※）及びろう者をテーマとした映画の上映会 ・上映作品：「咲む（えむ）」、「コーダ あいのうた」ほか ※コーダ：耳がきこえない、又はきこえにくい親のもとで育つ、きこえる子どものこと。

鳥取県手話言語条例制定10周年記念 第10回全国高校生手話パフォーマンス甲子園
本大会出場チーム一覧
(予選審査結果)

【①地方ブロック枠（6チーム）】※各ブロックで最上位チームを選出

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 北海道・東北	青森県	青森聾学校	あおもりろう	220	3回目
2 関東	埼玉県	坂戸ろう学園	さかどろう	236	4回目
3 中部	愛知県	杏和高等学校	きょうわ	252	6回目
4 近畿	奈良県	奈良県立ろう学校	ならけんりつろう	228	10回目
5 中国・四国	岡山県	明誠学院高等学校	めいせいがくいん	218	3回目
6 九州・沖縄	熊本県	熊本聾学校	くまもとろう	239	9回目

【②得点順枠（6チーム）】※①を除く上位6チームを選出（③で選出がないことによる振り替え1チーム分含む。）

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 中部	石川県	田鶴浜高等学校・石川県立ろう学校	たつるはま・いしかわけんりつろう	222	10回目・初出場
2 関東	埼玉県	大宮ろう学園	おおみやろう	217	2回目
3 中国・四国	鳥取県	鳥取聾学校	とっとりろう	217	7回目
4 中国・四国	愛媛県	松山聾学校	まつやまろう	216	5回目
5 北海道・東北	秋田県	秋田県立聴覚支援学校	あきたけんりつちやうかくしえん	216	初出場
6 中国・四国	愛媛県	済美平成中等教育学校	さいびへいせいちやうとうきやういく	215	初出場

※合同チームとして1回目。田鶴浜高等学校は10回目の出場

【③合同チーム枠（選出なし）】※②に田鶴浜高等学校・石川県立ろう学校合同チームが含まれるため選出なし

ブロック名	都道府県名	0	よみ	得点	本大会出場回数
1 -	-	選出なし	-	-	-

【④初出場枠（3チーム）】※①・②・③を除きこれまで本大会に出場したことのない上位3チームを選出（⑤で選出がないことによる振り替え1チーム分含む。）

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 近畿	大阪府	久米田高等学校	くめだ	209	初出場
2 関東	栃木県	栃木県立聾学校	とちぎけんりつろう	198	初出場
3 関東	茨城県	竹園高等学校	たけぞの	198	初出場

【⑤開催地枠（選出なし）】※②に鳥取県チームが含まれるため選出なし

ブロック名	都道府県名	学校名	よみ	得点	本大会出場回数
1 -	-	選出なし	-	-	-

[本大会の演技順]

順番	都道府県名	学校名	備考
1	茨城県	竹園高等学校	
2	栃木県	栃木県立聾学校	選手宣誓チーム
3	大阪府	久米田高等学校	
4	愛媛県	松山聾学校	
5	埼玉県	大宮ろう学園	
6	愛媛県	済美平成中等教育学校	
7	秋田県	秋田県立聴覚支援学校	
8	鳥取県	鳥取聾学校	
9	石川県	田鶴浜高等学校・石川県立ろう学校	
10	愛知県	杏和高等学校	
11	奈良県	奈良県立ろう学校	
12	熊本県	熊本聾学校	
13	岡山県	明誠学院高等学校	
14	埼玉県	坂戸ろう学園	
15	青森県	青森聾学校	

鳥取県手話言語条例制定10周年記念
第10回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 参加申込みチーム一覧

■参加申込 69チーム (69校)

ブロック名	チーム数	学校数	No.	都道府県	学校(チーム)名	よみ	※ 参加実績	備考
北海道・東北	5チーム	5校	1	北海道	北海道美里聖華高等学校	ほっかいどうびはいせいいか	4	
			2	青森県	青森聾学校	あおもりろう	3	
			3	岩手県	大船渡東高等学校	おおふなとひがし	初	
			4	秋田県	秋田県立聴覚支援学校	あきたけんりつちょうかくしえん	初	
			5	福島県	聖光学院高等学校	せいこうがくいん	2	
関東	17チーム	16校	6	茨城県	竹園高等学校	たけその	2	
			7	栃木県	栃木県立聾学校	とちぎけんりつろう	初	
			8	栃木県	佐野高等学校	さの	初	
			9	群馬県	安中総合学園高等学校	あんなかそうこうがくえん	初	
			10	群馬県	群馬県立聾学校(Aチーム)	ぐんまけんりつろうA	2	
			11	群馬県	群馬県立聾学校(Bチーム)	ぐんまけんりつろうB	2	
			12	埼玉県	坂戸ろう学園	さかどろう	4	
			13	埼玉県	大宮ろう学園	おおみやろう	2	
			14	千葉県	松戸向陽高等学校	まつどうこうよう	2	
			15	東京都	田園調布学園 高等部	でんえんちようふがくえん こうとうぶ	2	
			16	東京都	豊南高等学校	ほうなん	9	
			17	東京都	足立東高等学校	あだちひがし	4	
			18	東京都	潤徳女子高等学校	じゆんとくじよし	7	
			19	東京都	立川学園	たちかわがくえん	5	
			20	神奈川県	横浜南陵高等学校	よこはまなんりょう	8	
			21	神奈川県	横浜富士見丘学園中学校・高等学校	よこはまふじみがおかがくえん	2	
			22	神奈川県	英理女子学院高等学校	えいりじょしがくいん	初	
			中部	12チーム	13校	23	新潟県	燕中等教育学校
24	富山県	小杉高等学校				こすぎ	初	
25	富山県	龍谷高山高等学校				りゅうこくとやま	初	
26	石川県	金沢北陵高等学校				かなざわほくりょう	3	
27	石川県	田鶴浜高等学校				たつるはま	10	合同チーム
27	石川県	石川県立ろう学校				いしかわけんりつろう	初	
28	福井県	啓新高等学校				けいしん	9	
29	福井県	福井商業高等学校				ふくいしょうぎょう	初	
30	静岡県	静岡城北高等学校				しずおかじょうほく	2	
31	愛知県	桜花学園高等学校				おうかがくえん	9	
32	愛知県	杏和高等学校				きょうわ	9	
33	愛知県	岡崎東高等学校				おかざきひがし	7	
34	愛知県	古知野高等学校	こちの	4				
近畿	10チーム	10校	35	京都府	京都八幡高等学校南キャンパス	きょうとやわたこうとうがっこう みなみきんぱす	7	
			36	京都府	日星高等学校	にっせい	4	
			37	大阪府	淀商業高等学校	よどしょうぎょう	初	
			38	大阪府	久米田高等学校	くめだ	初	
			39	大阪府	大手前高等学校	おおてまえ	初	
			40	兵庫県	鳴尾高等学校	なるお	8	
			41	奈良県	聖心学園中等教育学校	せいしんがくえん ちゅうとうきょういいく	8	
			42	奈良県	奈良県立ろう学校	ならけんりつろう	10	
			43	奈良県	奈良県立高等養護学校 二階堂分教室	ならけんりつこうとうようごがっこう こうにかいどうふんぎょうしつ	初	
			44	和歌山県	橋本高等学校	はしもと	4	
中国・四国	16チーム	16校	45	鳥取県	鳥取城北高等学校	とっとりじょうほく	10	
			46	鳥取県	琴の浦高等特別支援学校	ことのはこうとう とくべつしえん	5	
			47	鳥取県	境港総合技術高等学校	さかいみなとそうごうぎじゆつ	10	
			48	鳥取県	鳥取聾学校	とっとりろう	8	
			49	鳥取県	米子東高等学校	よなごひがし	6	
			50	島根県	松江ろう学校	まつえろう	2	
			51	岡山県	明誠学院高等学校	めいせいがくいん	5	
			52	岡山県	岡山県美作高等学校	おかやまけんみまさか	6	
			53	岡山県	創志学園高等学校	そうしがくえん	初	
			54	広島県	ノートルダム清心高等学校	のーとるだむせいしん	6	
			55	広島県	広島修道大学ひろしま協創高等学校	ひろしまきょうそう	初	
			56	山口県	柳井学園高等学校	やないがくえん	初	
			57	徳島県	池田高等学校辻校	いけだこうとうがっこうつじこう	2	
			58	徳島県	脇町高等学校	わきまち	初	
			59	愛媛県	松山聾学校	まつやまろう	5	
			60	愛媛県	済美平成中等教育学校	さいびへいせいちゅうとうきょう いいく	初	
九州・沖縄	9チーム	9校	61	福岡県	三井高等学校	みい	10	
			62	佐賀県	佐賀星生学園	さがほっしょうがくえん	初	
			63	熊本県	熊本聾学校	くまもとろう	9	
			64	熊本県	上天草高等学校	かみあまくさ	初	
			65	大分県	大分東明高等学校	おおいたどうめい	10	
			66	宮崎県	本庄高等学校	ほんじょう	初	
			67	鹿児島県	出水中央高等学校	いずみちゅうおう	3	
			68	沖縄県	沖縄尚学高等学校	おきなわしょうがく	2	
			69	沖縄県	読谷高等学校	よみたん	2	

※参加実績欄 数字は参加回数(今大会含む)、「初」:初参加校

【申込み数】

チーム数	69チーム
学校数	69校
都道府県数	37

【参加実績内訳】

初参加校	23
初参加チーム	22
過去参加校	46

あるくと健康！うごく元気！キャンペーン（第2弾）の実施について

令和5年8月21日
健康政策課

健康づくり文化の定着と健康寿命の延伸を目的として「あるくと健康！うごく元気！キャンペーン」を実施しています。令和5年度の第2弾では、長距離歩行することが困難な高齢者や身体障がい者の方もポイント取得しやすくなるよう、健康づくりに資するウォーキング以外の項目を設け、日々の運動や生活習慣の改善による県民の更なる健康づくりの推進を図ります。

【第2弾実施概要】

- (1) 実施期間 令和5年9月1日～11月30日
- (2) 対象者 県内在住または勤務・就学している方
- (3) 実施主体 県（ウォーキング立県19のまちを歩こう事業実行委員会に委託）
- (4) 実施内容

ポイント 付与項目	<今年度の新規項目>	
	項目	付与内容
	19のまちを歩こう認定大会への参加	1大会につき7点（3大会まで）
	<昨年度から変更した項目>	
	項目	変更点
	日常の運動、地域・ボランティア活動	ポイント数を1点から3点へアップ
	禁煙	付与条件を「以前より減らした」から「半分に減らした」に具体化
	<昨年度からの継続項目>	
	項目	ポイント数
	日々のウォーキング	3,000～5,999歩：1点 6,000～7,999歩：2点 8,000歩以上：4点
スポーツ大会、健康イベントへの参加	1大会(イベント)につき5点	
第1弾（6月～8月）への参加	15点（期間中1回のみ）	
健（検）診受診	30点（期間中1回のみ）	
1日350g以上の野菜摂取	15点（期間中1回のみ）	
1日2回の主食・主菜・副菜を組み合わせた食事	1日につき1点	
参加方法	①歩数計アプリ「あるくと」及び専用サイトへの入力によるオンライン参加 ②専用記録用紙へ記入し、FAX・郵送・電子メールで申込み	
特典	・対象期間内に300ポイント以上を獲得した方の中から、抽選で500名に景品を贈呈 景品例：マッサージチェア、三朝温泉旅館利用券、星空舞、砂丘らっきょう甘酢漬 ・【新規】1日6,000歩達成すると、県内入浴施設の割引や入浴グッズ等の特典を提供 協力施設：9施設（砂丘温泉ふれあい会館、吉岡温泉会館一ノ湯、宝喜温泉館、ホットピア鹿野、ゆアシス東郷龍鳳閣、ハワイゆ〜たうん、せきがね湯命館、なかやま温泉ゆーゆー倶楽部naspal、緑水園）	
その他	・参加者にアンケート調査を実施し、実施前後の行動変容を把握	

＜参考＞過去3年間の実施状況 ※令和2年度は3ヶ月間、令和3年度以降は6ヶ月間実施

年度	参加人数	性別			年齢									
		男	女	不明	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明
令和4年度	3,672	1,453	2,181	38	21	354	639	879	885	557	252	74	5	6
令和3年度	2,755	1,128	1,617	10	30	295	438	682	649	405	188	61	3	4
令和2年度	1,958	803	1,134	21	26	184	285	460	407	291	176	68	1	60

更年期障がい医療拠点病院について

令和5年8月21日
健康政策課

鳥取県における更年期症状・障がいの医療提供体制及び相談支援体制を整備するため、更年期障がい医療拠点病院・地域拠点病院を指定しました。また、県民向け相談窓口となる相談支援センターを各地域拠点病院に今月開設します。

1 更年期障がい医療拠点病院

(1) 指定日：令和5年7月19日

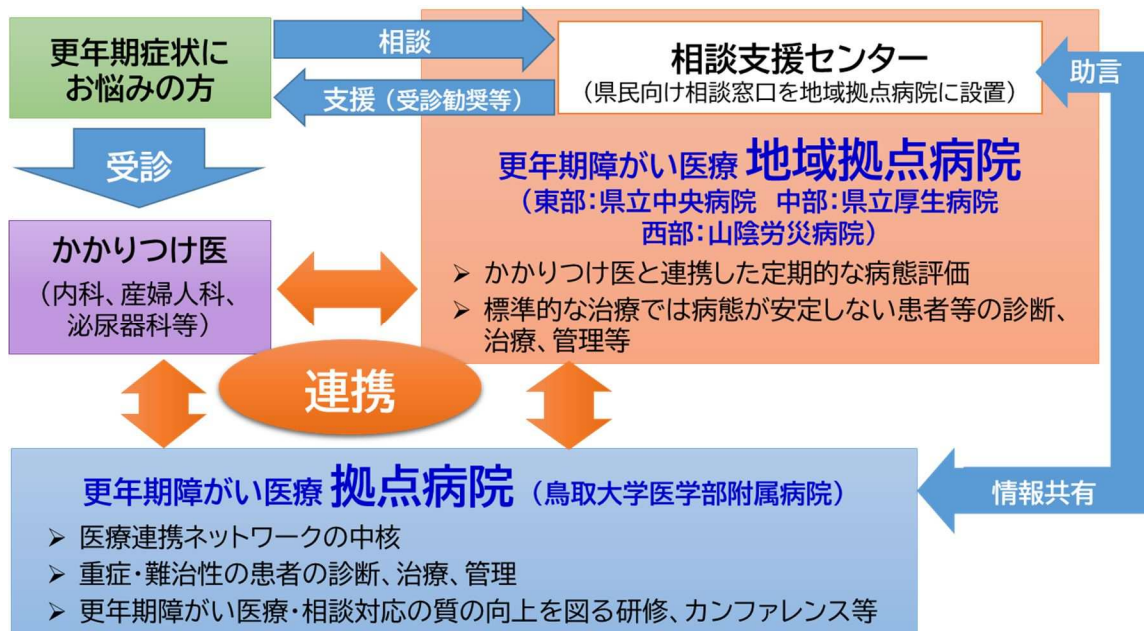
(2) 指定医療機関

①更年期障がい医療拠点病院（1か所）

鳥取大学医学部附属病院

②更年期障がい医療地域拠点病院（3か所）

東部地区：鳥取県立中央病院、中部地区：鳥取県立厚生病院、西部地区：山陰労災病院



2 更年期障がい相談支援センター

(1) 開設日：令和5年8月30日（予定）

(2) 相談受付体制

設置病院	鳥取県立中央病院	鳥取県立厚生病院	山陰労災病院
受付方法	電話・面談	電話・面談	電話
受付時間等	水曜・木曜日 午前9時～正午	平日 午前9時～午後5時	月曜・水曜日 午後2時～午後4時
電話番号	0857-26-2271 (代表)	0858-22-8181 (代表)	0859-35-2080

第1回「中山間地域を支える医療人材確保に向けた研究会」の開催結果について

令和5年8月21日
医療政策課

第1回研究会を開催しましたので、その概要を報告します。いただいたご意見を踏まえ、引き続き関係者からヒアリングを行い、施策の検討を進めます。

(研究会趣旨) 病院勤務医の安定的確保が困難となっていること(高齢による退職、大学入局者の減少、働き方改革の影響等)、また、診療所医師の高齢による離職・閉院により今後の地域のかかりつけ医機能の維持が懸念されるなど、医師をはじめとする医療人材の確保が喫緊の課題となっていることから、現状及び課題について、行政及び医療界全体で認識を共有するとともに、実効性のある対策を検討し施策につなげるための研究会を設置。

記

1 日 時 8月9日(水) 午後3時30分から5時30分まで ※WEB開催

2 委 員 別紙のとおり(座長:渡辺県医師会長)

3 主なご意見

(医師確保)

- かかりつけ医機能の低下を懸念。開業する医師への財政支援を検討してほしい。(県町村会)
- 承継の仕組みづくりに向けた検討を進めたい。(県医師会)
- 病院に残ってもらう総合診療医の育成・確保が重要。育成を行っている鳥取大学「地域医療学講座」(県寄附講座)の継続、拡充を検討してほしい。(自治体病院、西部町村会)
- 総合診療医を目指す医師が増えるよう、研修や研鑽の仕組みづくりが重要。総合診療医の役割の重要性について県から強力なメッセージを発信してほしい。(地域医療学講座、県地域医療支援センター)
- 医療圏ごとに医師をプールし、派遣する仕組みを検討してほしい。(東部自治体病院)
- 鳥取市立病院とも連携したドクターバンクの仕組みを検討したい。(中央病院)
- 県派遣医師のやりがいを高めるとともに、総合病院のシニア医師が当該医師の指導や診療支援を行う仕組みを検討してはどうか。(県地域医療支援センター)
- 医学生の地域医療マインド醸成に向けた検討を進めたい。(鳥取大学医学部)
- 患者の受療行動分析等に基づき、今後の自治体病院の機能評価も必要。(自治体病院、鳥取大学病院)

(看護師確保、その他コ・メディカル確保)

- 今後の人事交流も視野に、地域研修として派遣してもらえないか大学病院と検討中。(自治体病院)
- 就業・再就業支援を行う県ナースセンターの機能強化も必要。(県看護協会)
- 薬剤師も高齢化しており、退職後の確保が課題。(自治体病院)

4 今後の予定

【第2回】中間整理(施策の検討)

【第3回】とりまとめ(引き続き取り組むべき課題の整理など)

中山間地域を支える医療人材確保に向けた研究会委員

区分	所属	役職	氏名
町立病院・診療所	岩美町国民健康保険岩美病院	院長	尾崎 隆之
	国民健康保険智頭病院	院長	足立 誠司
	南部町国民健康保険西伯病院	院長	長谷川 純一
	日南町国民健康保険日南病院	副院長	平岡 裕
	日野病院組合日野病院	院長	孝田 雅彦
	江尾診療所	所長	武地 幹夫
町村	県町村会	八頭町長	吉田 英人
	東部町村会	智頭町長	金兒 英夫
	中部町村会	三朝町長	松浦 弘幸
	西部町村会	大山町長	竹口 大紀
鳥取大学	鳥取大学医学部附属病院	病院長	武中 篤
	鳥取大学医学部	医学部長	景山 誠二
	鳥取大学医学部地域医療学講座	教授	谷口 晋一
	鳥取県地域医療支援センター	専任医師	福本 宗嗣
		特命助教	紙本 美菜子
医師会	県医師会	会長	渡辺 憲
	東部医師会	会長	石谷 暢男
	中部医師会	会長	安梅 正則
	西部医師会	会長	根津 勝
県立病院	中央病院	院長	廣岡 保明
	厚生病院	院長	花木 啓一
看護協会	県看護協会	会長	松本 美智子
県・保健所	福祉保健部	部長	中西 眞治
	福祉保健部健康医療局	局長	坂本 裕子
	鳥取市保健所	所長	長井 大
	倉吉保健所	所長	小倉 加恵子
	米子保健所	所長	藤井 秀樹

新型コロナウイルス感染症への対応について

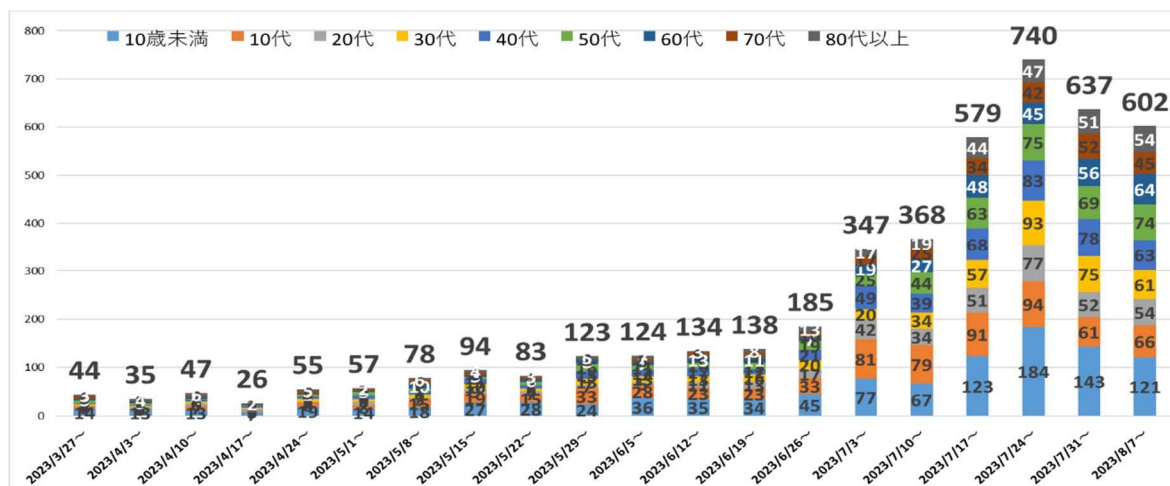
令和5年8月21日
感染症対策課

新型コロナウイルス感染症については、7月に入って全県で患者数が急増するとともに、7月下旬から入院者数、中等症Ⅱ以上の患者数の増加が見られ、8月1日から全県に医療負荷の目安である『新型コロナ警報』の『注意報』を発令、流行情報（感染拡大レベル）は、3圏域とも「警戒レベル」が継続しています。

定点医療機関の患者数は、東部・西部地区は、第31週（7/31～8/6）、第32週（8/7～8/13）と減少しましたが、中部地区では、第32週は増加しています。また、60代以上の患者数の増加傾向も続いており、お盆時期の人流や活動の影響も含めて、今後も感染動向に引き続き注意し、感染動向に応じた対応を行ってまいります。

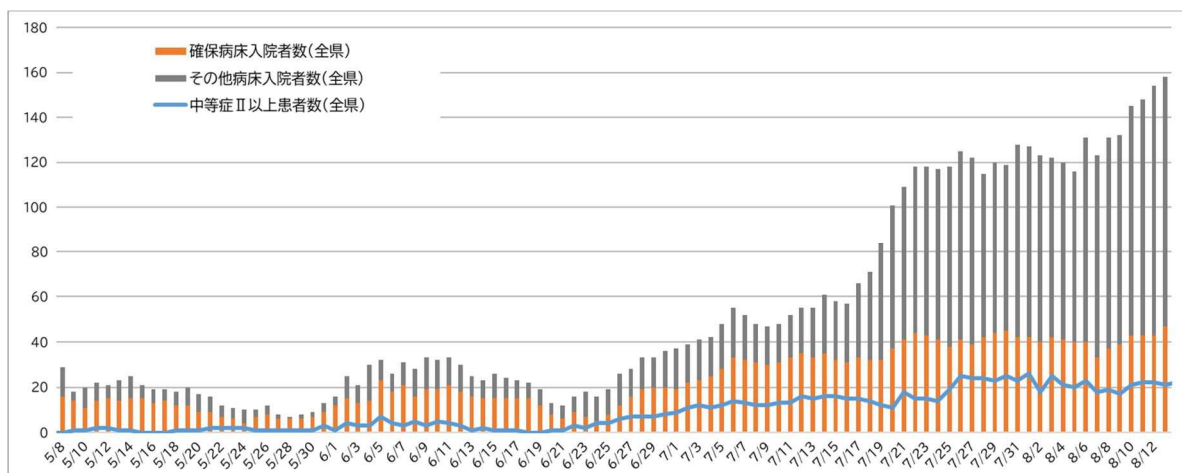
1 県内における感染状況

(1) 定点医療機関の新規患者報告数の推移（年代別）



※定点医療機関の内訳：小児科定点 19 医療機関及び内科定点 10 医療機関

(2) 入院者数及び中等症Ⅱ以上患者数



2 県民への注意喚起

<流行情報（地区別）>

第29週（7/17～7/23）に中部・西部地区が、第30週（7/24～7/30）に東部地区が、定点あたりの患者数が20人/週を超え、「警戒レベル」が全県で継続している。

現在の感染状況が、第8波と比較してどの程度のレベルかを地区ごとにお知らせするもの

- 注意レベル： 定点当たり 10人/週（今後の感染拡大に注意が必要と考えられる段階）
- 警戒レベル： 定点当たり 20人/週（感染者数の加速度的な増大のおそれがある段階）

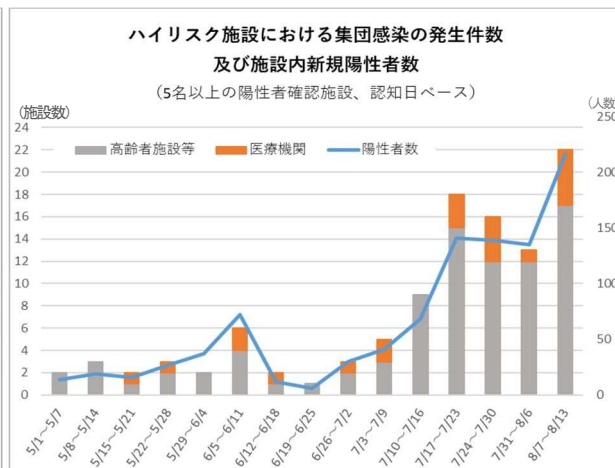
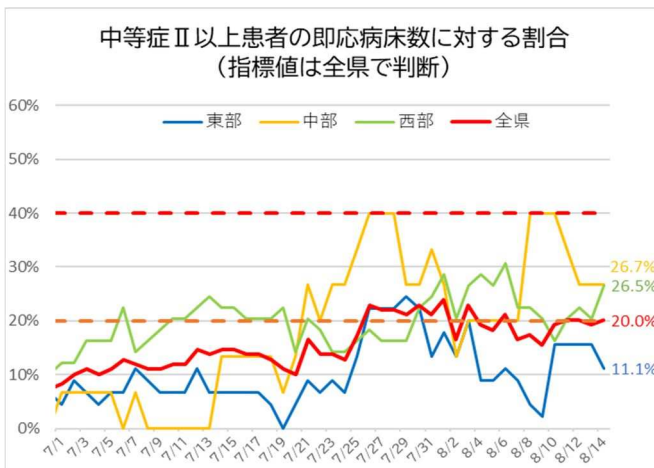
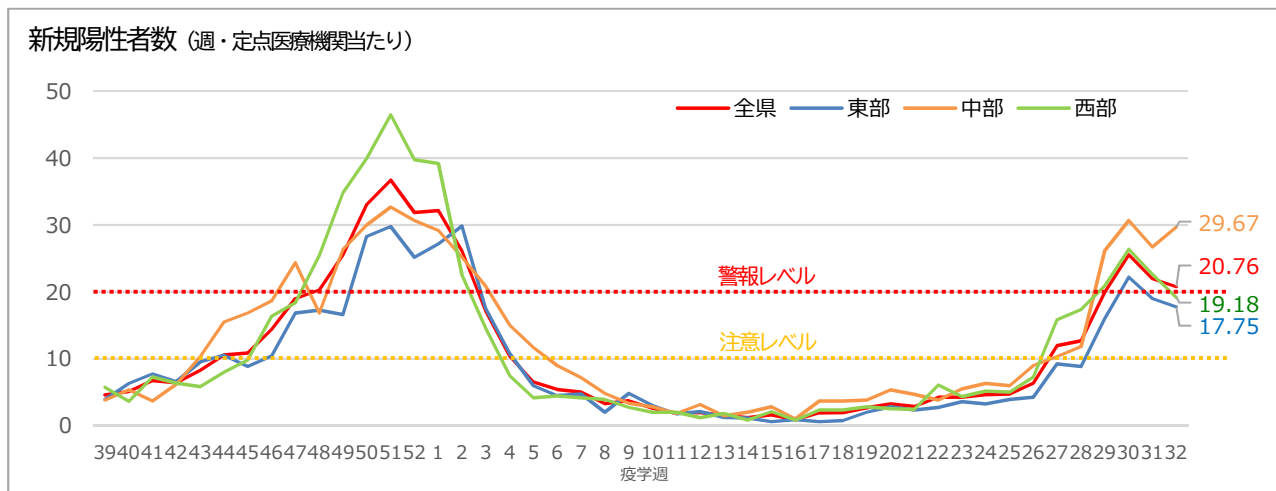
※いずれも、定点当たり 10人/週を下回れば解除

<新型コロナ警報（全県）>

中等症Ⅱ以上の患者数が、即応病床数の20%を超える状況が発生するとともに、医療機関の集団感染事例が続発していることから、さらなる入院者数の増加による医療への負荷が懸念される状況として、8月1日から「注意報」を発令し、継続している。

【県民の皆様・県内に滞在する方へのメッセージ】

「基本的な感染対策の徹底、特に高齢者と接する場合は体調を整えること」、「気温が異常に高い状況が続いていることから日頃からの体調管理」、「体調悪化時に備えて抗原検査キットや常備薬の準備」、「医療機関や高齢者施設での面会時のルールの順守」などのメッセージを发出している。



3 今夏の感染拡大に対する医療体制確保等

8月8日、鳥取県感染症対策センター（県版 CDC）拡大ミーティングを開催し、次の対応について、関係者で確認し、協力して実施している。

（1） 外来診療・検査対策

- ・ 急患診療所（地区医師会）の診療体制拡充に対する助成（お盆時期の体制拡充の支援）
- ・ コロナ患者の同居家族用の自主検査用抗原検査キットを配布（お盆期間中8/10～16に開院する医療機関において対応）
- ・ 抗原検査キットを活用したセルフチェックの勧奨（抗原検査キット購入希望者向けにお盆期間中の開局薬局をHPでお知らせ）

（2） 高齢者の重症化抑止対策

- ・ 高齢者等への抗ウイルス薬の早期投薬、施設内の感染拡大防止策の徹底、体調悪化時の入院調整等について、関係者へ要請
- ・ 高齢者等施設への感染防止対策支援（PCR 検査等費用、陽性者発生に伴うかかり増し経費支援、感染管理認定看護師の派遣等）

（3） 入院受入れ体制強化

- ・ 他医療機関や高齢者福祉施設等からコロナ患者を受け入れる医療機関に対し、感染対策の運用等に伴い、休止する病床が生じた場合に、一定の助成（休止病床の補償）をすることで、入院受入れを促進（緊急対策として8月末までの受入れ開始分を助成）

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和5年8月21日
福祉保健部

【変更分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	変更理由
医療政策課 (中部総合事務所 県土整備局)	倉吉総合看護専門学校若葉寮 屋上防水・外壁改修ほか工事	倉吉市 南昭和町	株式会社伊藤建設 代表取締役 伊藤 典章	(当初契約額) 115,500,000円	令和5年3月1日 ～ 令和5年8月1日	(当初契約年月日) 令和5年3月1日	—
				(第1回変更後契約額) 124,359,400円	(変更後工期) 令和5年8月31日	(第1回変更契約年月日) 令和5年7月24日	現場での調査の結果 補修範囲が増加した こと及び体育館車椅子 利用者用スロープ の設置等を追加した ことによる工事費の 増及び工期の延伸